

教科(科目)	情報(情報I)	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	情報I Next (数研出版)				
副教材等	情報I Next サポートノート(数研出版) ポイント整理 情報モラル 16th Edition (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育みます。 ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。

2 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
--

3 指導の重点

① 課題や目的に応じて情報を適切に活用できる実践力を育成する。
② 情報手段の特性を理解し、情報を適切に評価、改善するための基礎的理論や方法を理解させる。
③ 情報や情報技術が社会で果たしている役割を理解し、情報社会に参画する態度を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めようとしている。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できる。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	- 定期考査、小テストの分析 - 授業の取り組み(出席状況、授業態度)の観察 - ワークシート等の提出物の内容の確認などから評価します。	- 定期考査、小テストの分析 - 授業の取り組み(出席状況、授業態度)の観察 - ワークシート等の提出物の内容の確認などから評価します。	- ワークシートやレポートの分析 - 授業の取り組み(出席状況、授業態度、実習)の観察 - ワークシート等の提出物の内容の確認などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア	①情報の特徴 ②情報の表現形式 ③問題解決	・情報とは何か。情報の信ぴょう性とは何かを理解させ、クロスチェックの重要性を具体的に理解させる。	4	課題提出 定期考査 小テスト
5	第2章 情報社会における 法とセキュリティ	① 情報社会 ② 個人情報 ③ 知的財産権 ④ 著作権	・情報に関する法規や制度について理解させるとともに、それらの必要性について考えさせる。	7	
6	第3章 情報技術が社会に 及ぼす影響	⑤情報セキュリティ ⑥情報セキュリティ対策 ①情報技術の発展 ②情報技術の適切な活用	・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会や生活の変化について理解させる。	6	
7	第2編 コミュニケーションと 情報デザイン	①デジタル情報の特徴 ②デジタル情報の表し方 ③デジタル表現④データの圧縮	・アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを理解させる。	6	課題提出 定期考査 実習 小テスト
8	第1章 情報のデジタル表現	①コミュニケーション手段の発達 ②情報の発信とメディアの性質	・古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。	4	
9	第2章 コミュニケーション 手段の発達と特徴	①情報を表現する方法 ②効果的な情報デザイン	・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させるとともに、情報を抽象化・構造化・可視化する方法や表現を工夫する技術を身に付けさせる。	5	
10	第3章 情報デザイン	①プレゼンテーションの流れ、注意 点	・プレゼンテーションの流れと注意点を理解させるとともに、効果的なコミュニケーションのために情報デザインの考え方や方法を理解させる。	6	課題提出 定期考査 実習 小テスト
11	第4章 プレゼンテーション	①アルゴリズム ②プログラミング	・コンピュータの基本的なしくみとはたらき、CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎について理解させる。	5	
12	第3編 コンピュータと プログラミング	①モデル化 ②シミュレーション	・問題の解法を、アルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。	6	
1	第1章 コンピュータの しくみ	①コンピュータによる通信 ②通信プロトコル ③パケット通信 ④IP アドレスとドメイン名 ⑤WWW と電子メール ⑥情報の暗号化	・モデル化やシミュレーションの考え方・手順を理解させ、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法を理解させる。	6	課題提出 定期考査 実習 小テスト
2	第2章 プログラミング	①データベース ②社会における情報システム	・コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルなど、インターネットでの通信の原理について理解させる。	7	
3	第3章 モデル化と シミュレーション	①さまざまなデータ ②データの分析	・データベースの概念や、データベース管理システムの機能について理解させる。	3	
	第4編 情報通信ネットワーク とデータの活用		・データを分析する際に必要となる。データの形式、データの収集方法、データの種類について理解させるとともに、それらを扱いデータを分析する技能を身に付けさせる	5	
	第1章 ネットワークの しくみ				
	第2章 データベース				
	第3章 データの分析				

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

実技教科となりますので、どれだけ「やった」が重要です。授業時の課題に対する取り組み方や、提出された課題によって評価します。また、主に知識・理解の度合いを評価するため、定期考査も行います。これら、平素の授業への取り組み・課題に対する評価・考査の得点を総合的に勘案し評価を行います。

8 担当者からの一言

体育や芸術と同様に実技教科となりますので、どれだけ「やった」か、1時間1時間細かく評価します。
1回1回の授業を大事にし、また積極的に取り組んでください。